

特別支援教育の視点を取り入れた授業自己チェックリスト

～みんなが目を輝かせて参加し、分かる・できる授業をめざして～

	視 点	内 容	指導・支援の例	評価
「学習環境」の整備	環境の調整	活動に取り組みやすくするための、物の配置や手がかりを工夫している。	・物の置き場所が分かる表示	
	刺激量の調整	学習の妨げとなる刺激を除いたり軽減したりするように工夫している。	・音や光などの刺激の軽減 ・不必要な掲示物の除去	
どの子にとっても「分かる」「できる」授業の工夫	めあての明確化	子ども自身が、「考えたい」「してみたい」と思うような明確な学習のめあてをもてるように工夫している。	・前時の課題からめあてを作る ・子どもの言葉でめあてを作る	
	学習の見通し	学習活動の流れや内容・方法・時間等の見通しがもてるように、また、いつでも確認できるように工夫している。	・めあての板書 ・「本時の予定」の板書 ・既習事項の掲示	
	情報の伝達	指示・説明は、簡潔で明確にしている。また、言葉だけでなく視覚的にも提示している。机間指導をして理解できているか確認している。	・一度に多くの指示を出さない ・指示を黒板に明記 ・絵や図等を使って説明	
	集中の持続	教材から子どもの意識が離れないように、集中しやすい多様な学習活動を工夫している。	・動作化 ・体験、作業を伴った活動 ・ロールプレイの導入	
	情緒の安定	学び合ったり、助け合ったりする活動が工夫されていて、教師や友だちからほめられる場面がある。	・協力する場面の設定 ・認め合う場面の設定 ・ノートや作品へのコメント	
	達成感、自尊感情	評価の内容、方法、基準等を工夫し、すべての子どもが達成感や満足感を味わい、自尊感情が高まるような配慮をしている。	・振り返る場面の設定 ・個々の伸びの評価 ・「今日のがんばり大賞」	
一人一人の教育的ニーズに応じた支援	思考・表現活動への配慮	思考・表現の際の補助となる手がかりを工夫している。	・観点やポイントの提示 ・ヒントカードの使用	
	話すことへの配慮	ペア対話などの話しやすい環境を整え、話す機会を工夫している。	・少人数で発表し合う ・メモを使って話す ・二番目以降に指名	
	読むこと、書くことへの配慮	読むことや書くことへの負担を軽減し、自信がもてるように工夫している。	・文字に読み仮名をふる ・書き出しやキーワードの提示 ・大きなマスに書く	
	運動・感覚への配慮	運動面の困難さ、不器用さ、感覚の過敏・鈍感さに配慮している。	・書く量や練習回数の調節 ・道具の使い方の個別指導	

このチェックリストは、H25年3月に特別支援教育課が校内研修資料として各学校に配付したものをもとに作成したものである。ホームページ(<http://www.pref.kagawa.jp/keikyoui/tokubetsusien/>)からダウンロードするなどして、本チェックリストを活用することにより、授業改善に取り組むことが望まれる。